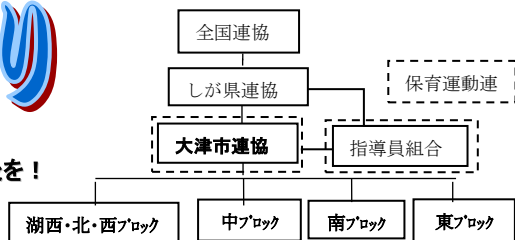


南連協だより

スローガン：子どもたちに豊かな放課後を！

otsu_gakudo@yahoo.co.jp

http://gakudo-shiga-otsu.jimdo.com/



活動報告

① 第1回大津市連協 代表者会議 + 第1回滋賀県連協 拡大代表委員会 開催！

7/10(日)明日都浜大津ふれあいプラザ(5階大会議室)において、市連協活動内容や大津市への要望事項の提案について報告がありました。また県連協からは全国学童保育研究集会、滋賀県学童保育研究集会のご案内がありました。

また、大津市学童保育 指導員労働組合の竹中先生(青山児童クラブ)より“かつてない緊急事態”という題目で夏休みの児童クラブの状況を説明していただきました。

施設がないのにどんどん増え続ける児童数。さらに指導員不足がますます深刻化し制度見直しが必要な状態です。指導員の先生方は保護者の皆様と手を携えあって、よりよい児童クラブづくりを目指していきたいと考えておられます。

保護者会でもこの事態を話題に取り上げ、夏休みの児童クラブの様子を見学しましょう！そして児童クラブで子どもたちが、いきいきとより良い生活ができるよう市連協を通して大津市に訴えかけていきましょう！！

大津市への要望書も各児童クラブでまとめ、提出していただきました。ご協力ありがとうございました。会長・事務局で取りまとめ、8月に提出予定です。大津市の児童クラブがより一層、安全で安心して生活できる環境となるよう市連協からも働きかけていきますので、今後ともどうぞご協力宜しくお願い致します。

② 5/26 (木) 児童クラブ課への訪問

市連協新役員挨拶を兼ねて、平成28年度の展望を伺うため、児童クラブ課(他谷課長、小谷専門員、白須課長補佐)へ訪問しました。児童クラブ入所者数はここ数年増加傾向にあり、また1.65m²/人の基準を満たしていない児童クラブが今年は13/37クラブあるとのこと。一方、市立学童施設の場所の確保は難航、民間学童はレイモンド瀬田、茶臼山、ほんぷくじ保育園、桂川で新規開設されたが、その他の新規参入は今のところ見込みが少ないといった状況です。

③ 7/16 (土) 大津保育運動連絡会総会 参加

現在の津市の情勢では「待機児童ゼロ」となっているが、希望園ではないとの理由から80名が未入所です。既存民間園は軒並み定員超過の傾向、新設民間園では4,5歳児クラスは埋まらず定員未達が多く全市的に1,2歳児の入所希望が多い状況です。2015年度に大津市は公立幼稚園・保育園の方針を示し、1小学区1市立園を見直し広域エリアを基本に再編して適正規模を確保するとのこと。こども園化が加速することが予想されます。

また京都華頂大学 藤井伸生先生の講演より、こども園化することで市立から民間に簡単にチェンジできるという話が衝撃的でした。また、課題解決にはまず多くの保護者が現場を見て、みんなが課題を共有すること。そして、マスコミ利用も含め、広く状況を世間一般に伝えていくことが本当に重要、とのことでした。



代表者会議参加の皆様
暑い中、ご苦勞様でした。

ご案内

① 第51回 全国学童保育研究集会 in愛知

大津市連協派遣員を大募集！！

目的：全国の学童保育所の情報を、各保護者会や市連協に提供して下さい。

日時：10/29(土) 13:00～16:50 全体会 愛知県立体育館

10/30(日) 9:30～16:00 分科会 金城学院大学

一次締め切り：9/10

交通費と参加費は市連協が負担します。

申込み先はメールにて、大津市学童保育連絡協議会まで

otsu_gakudo@yahoo.co.jp

② 滋賀県学童保育研究集会のお知らせ

日時：11/13(日) 10:00～17:00 受付 9:30～

会場：野洲市 野洲文化ホール

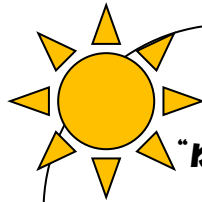
分科会(午前中)：7分科会に分かれて交流・学習

全体会(午後)：松崎 運之助 氏

♪♪編集後記♪♪

新年度気分も束の間、アツという間に夏休みですね。

子ども達にとって、待ちに待った夏休み！！ですが、お父さんお母さんは毎日のお仕事+お弁当作りが待っています(汗)挫折しそうな時、“子ども達は大好きなお母さんのお弁当をとっても楽しみにしているんですよ！！”と児童クラブの先生に励まされたことがあります。お弁当には学校の給食に負けない、親の愛情がたっぷりです。大変ですがお弁当作り、頑張りましょう！そして今年の夏も、思い出いっぱい夏休みにしましょう！！(雄琴児童クラブ 広報担当)



夏休み 特別企画インタビュー！！

“ゆっくり、じっくり、毎日の生活を楽しもう”

青山児童クラブ 竹中先生より

いよいよ夏休みが始まりました。児童クラブでの長い一日の生活が子ども達にとっても、指導員にとっても、楽しいものになるようにしたいものです。

放課後が短くなってきたここ数年、宿題が多かったり塾や習い事があって、毎日子どもたちは慌ただしく過ごしています。

宿題とおやつの後、遊び始めてだんだんと盛り上がってきたかと思えば、「そろそろ片付けてや～、帰りの会やで～」となってしまうことがよくあります。「明日も続きしたいし、このまま置いといていい？」と言う子どもたちの手には泥団子が…。「いいよ、布に包んで靴箱に入れとき。」と言うものの、次日は習い事で休みだったりして泥団子が乾いてしまうことも。先日、楽しくおままごとをしていた1年生の男女5人ほどが片付けの時間になったときに、「〇〇くん、明日児童クラブ来る？」「あっ、ぼく明日休みや。あさってまた続き、寄せてな。」という会話をしているのを聞いて、複雑な気持ちになってしまいました。

でも、でも、夏休みはたっぷり時間があります。時間を気にすることなく泥団子をつくったり、カプラで迷路を作ったり…。野球もドッジボールも思い切り楽しむことができます。

夏休みならではの、行事や取り組みも計画しますが、やはり毎日の当たり前前の生活を心行くまで楽しんでほしいと思っています。そしてじっくり遊ぶなかで、子ども同士の関わり合いも深まり、私たち指導員も日頃は見えていなかった子ども一人ひとりの違った表情や言葉、その子の思いを発見することができます。

また、長い一日のなかでは、体調が悪くなることもありますし、友だちとケンカをして気持ちがしんどくなることもあります。そんな時いつでも指導員に言えるそんな関係を大切にしたいと考えています。

これらのことを大切に生活づくりをしようと思えば、やはり適正な規模の集団と空間、指導員体制が必要になります。深刻な過密化、超大規模集団、指導員不足では到底できません。

子どもたちに生き生きとした夏休みを保障し、保護者のみなさんに安心して仕事をさせていただくためにも、みんなで力を合わせてよりよい学童保育づくりを目指して活動していきたいものです。

